

釧路湿原自然再生協議会

第1回 みんなの湿原小委員会（再生普及・地域づくり小委員会（仮称））

議事要旨

日時：令和7年2月7日（金） 13：30～16：30

場所：釧路地方合同庁舎5階共用第1会議室

オンライン（Zoom）併用開催

1. 開会
2. 小委員会再編の経緯について
3. 委員長、委員長代理の選出
4. 議事
5. その他
6. 閉会

●事務局

（オンライン参加者への注意事項、写真撮影、録音の説明）

（資料の確認）

【議事2. 小委員会再編の経緯について】

資料に基づき説明

（資料4. 小委員会再編の経緯について）

【議事3. 委員長、委員長代理の選出】

第12期の本小委員会の委員長及び委員長代理の選出を行う。自薦他薦どちらでも構わない。

●委員

釧路公立大学の中村委員を推薦する。

●事務局

中村委員の推薦があった。他に推薦はあるか。

（なし）

他に推薦等はないようである。中村委員に委員長をお願いしたいがいかがか。

（拍手）

●委員長

釧路公立大学の中村です。

これまで、旧地域づくり小委員会で委員長を務めていた。今回、再生普及と地域づくりの小委員会が一つになる。本日は、両小委員会の実施報告、名称の決定や方針を固める大切な小委員会になる。実りある議論ができるように進行していきたい。

●事務局

これから先の議事進行を委員長にお願いする。

●委員長

委員長代理を選出したい。自薦、他薦どちらでも構わない。

特にないようなため、私から高崎委員を推薦したいが、いかがか。

(拍手)

●委員長

拍手で承認いただいた。委員長代理は高崎委員にお願いする。

議事４に入る。再生普及小委員会より取り組み状況を報告する。続いて地域づくり小委員会の取り組みを報告する。全ての報告後に報告内容について議論した後、10 分の休憩を挟み、小委員会の名称を決める。会議開催時間は3時間の予定である。

●事務局

【議事４．議事】

(資料５．第１回再生普及・地域づくり小委員会（仮称）資料)

(1. 再編後小委員会の目的・名称

2. 再生普及小委員会

2.1 再生普及小委員会について

2.2 取り組み状況の報告

2.3 第４期再生普及行動計画の評価案について)

資料に基づき説明

●委員長

再生普及小委員会の取り組み状況の報告、第４期再生普及行動計画の評価案について意見はあるか。

●委員

第４期再生普及行動計画の評価を参考に見直しを実施して、第５期再生普及行動計画に反映

させ、次年度以降に策定するのか。

●事務局

そうである。

●委員

資料 19 ページの評価案で「3-2(3)ワイズユースに向けたルールの普及」が B 評価となっているのは、利用に関するガイドライン作成の内、釣り人や散策する人へのガイドラインが未作成なためである。また、「3-1③湿原のために行動する～保全や再生に関わる人・機会を増やす」が B 評価であるのは、若者に広げる機会、若者に参加してもらい機会を増やせなかったことだと理解している。

「3-2(1)一次産業とのつながりをひろげる」の B 評価について、今後の課題を説明願う。

●事務局

現時点では、一次産業関係者の協議会への参加や、協働事業が進むというところまで至っていないため B 評価にしている。

●委員

農業との提携はあるが、漁業との提携に課題が残っていることから B 評価であったと理解して良いか。

●事務局

その認識で良い。

●委員

想定外や見逃しにより、大規模な太陽光パネルの設置が進むというように、湿原に対して負荷を与えかねないことが起きたことを踏まえると、B 評価よりは C 評価に近いのではないかと。

●委員長

想定されている計画に対する評価のため、想定されていないことに対して評価はできない。評価基準がこれだけで良いのかという大切な問題提起ではある。

●事務局

主にアクティビティルールの普及について評価した。ワイズ・ユースという言葉に照らし合わせて考えると、委員の発言内容も加味するべきだと思う。今後の行動計画の評価をする際の指標や次の行動計画に引き継いでいきたい。

●委員

よろしくお願いします。

●釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会 芳賀委員

この評価は、誰がどのように評価したのか。

●事務局

評価案を事務局で作成し、再生普及推進のための連携チームの会議で意見をいただいて修正した。

●委員長

地域づくり小委員会からの取り組み状況の報告をお願いします。

●事務局

【議事 4. 議事】

(資料 5. 第 1 回再生普及・地域づくり小委員会 (仮称) 資料)

(3. 地域づくり小委員会

3.1 地域づくり小委員会について

3.2 取り組み状況の報告)

資料に基づき説明

●事務局

(資料 5. 第 1 回再生普及・地域づくり小委員会 (仮称) 資料)

(資料 42 ページ ロングトレイルのご紹介)

資料に基づき説明

●事務局

(資料 5. 第 1 回再生普及・地域づくり小委員会 (仮称) 資料)

(資料 47 ページ AT に係る釧路総合振興局の取組)

資料に基づき説明

●事務局

(資料 5. 第 1 回再生普及・地域づくり小委員会 (仮称) 資料)

(資料 52 ページ 自然再生事業箇所の利活用推進 うまたびとの連携)

資料に基づき説明

●委員

(資料5. 第1回再生普及・地域づくり小委員会(仮称)資料)

(参考資料4 令和6年度 釧路国際ウェットランドセンター市民環境調査について)

資料に基づき説明

●委員長

各説明等に対する意見、質問等はあるか。

●委員

ロングトレイル、アドベンチャートラベル、マルチパーパストレイルといった地域づくり小委員会での取り組みと、釧路湿原自然再生協議会の取り組みとの関係を整理する必要がある。意義や視点が明確に押えられているのかということも明らかにしておく必要があると思う。

そうでなければ、釧路湿原自然再生協議会が行っている地域づくりの取り組みが、サステナブルツーリズムという取り組みの視点で展開していると誤解されてしまう。自然再生事業との連携という視点は明らかにしておく必要があると感じているため、追加の説明をお願いしたい。

●委員長

地域づくり小委員会発足時は、各主体が釧路湿原に役に立つということを自主的に提案するというボトムアップ型から始まった。当初は何をするのか整理されていない状態からスタートしていたため、今後二つの小委員会が一つになる上で整理が必要である。

ロングトレイルやアドベンチャートラベルは既に動いており、マルチパーパストレイルは亀山委員からの提案で進めてきた。本日、オンラインで参加しているため、説明いただく。

●委員

私は馬が通っても、歩いても、自転車などに乗っても「人がゆつくりと湿原を楽しめる場所を作ろうじゃないか」とマルチパーパストレイルを提案した。利用による軋轢を解消するために、守るべきところ、再生するべきところからは少し人が引くという感覚で、当時デジタルデータで道を作った。自然再生をする中で、できるだけ人間側の圧力による影響が少なくなる部分を利用させていただくという意味で提案したものである。

環境省のいうロングトレイルは、実現して綺麗なホームページもできている。是非こういう形で発展していったら、人間と湿原の軋轢が減るような未来があれば良いと望んでいる。

●委員長

亀山委員の提案は、環境省のロングトレイル業務に引き継がれた形だと思う。

事務局からコメントはあるか。

●事務局

ロングトレイルと鶴居村観光コンテンツのアドベンチャートラベルについてお答えする。どちらも自然再生と密接な関わりがあると考えている。トレイルを訪れる方、宮島岬に今後訪れる方は自然に大変関心がある方々である。釧路湿原は自然再生を抜きにしては語れないということもあり、そのストーリーを来訪者にお伝えする。また、来訪者がそのストーリーに感動し、より深い学びを得て、釧路湿原をより深く理解していただく。そして、その説明をする地元やガイドの方々とのつながりが、自然再生には重要であると考えおり、地域づくりの委員事案に入れている。

●委員

ロングトレイルの構想やアイデアには、非常に私も賛成である。

資料 44 ページの憲章に前書きが無いことに対して違和感を覚える。この憲章は何を目的にしているのか。「2. この道は、人と自然のあるべき関係を考える学びの道。」を工夫して、北海道東トレイルで訴えたい、実現させたいという前書きが必要だと思う。

この 2. の記載は、釧路湿原自然再生協議会の目的とほぼイコールであると思う。それをきちんと位置付けることにより委員の発言にも応えられる。

前文や前書きが必要な理由は、常にそこへ戻って物事に取り組むことが成功の基本でもあり、大原則であるからである。

●事務局

この憲章自体は既に別の枠組みで整理されているため、本日いただいた意見を踏まえて対応を考えていきたい。

●委員

ロングトレイルとアドベンチャートラベル、宮島岬のツアーに関しては、地域づくり小委員会として取り組んできたものではないため、今回の報告は適切だと感じられなかった。話題として提供されるのであれば違和感は無かった。話題提供は非常に勉強にもなるため今後もあるべきである。今後、小委員会の事案として扱っていくのであれば、しっかりと議論をして、地域の自然再生事業と関連させて考えていく必要がある。

●委員長

地域づくり小委員会で実施しているもののほか、各委員が実施する活動の情報共有やサポートをする整理になっている。新しく小委員会を編成するにあたり整理は必要かもしれない。

●委員

地域づくり小委員会の地域を盛り上げる取り組みと、ワンダグリンダ・プロジェクトでの湿原に関する取り組みは全く同じである。そのため、是非これを自然再生事業として位置付ける必要がある。

ロングトレイルなども釧路湿原自然再生協議会で議論が進まなかった一つである。釧路地域だけではなく、弟子屈町や阿寒地域を含む上流側を全部含めた流域での取り組みが進まず、議論の中で悶々としていたが、この地域づくり小委員会の取り組みがこれに合致する。

我々の自然再生事業の視点は、釧路湿原の自然を再生してその機能や豊かさを、地域の人たちに限らず全ての国民が享受できることにある。その手法として、ロングトレイルやアドベンチャーツーリズム、マルチトラストがある。他に、「うまたび」、「かわたび」の取り組みを位置付けるということで、更に自然再生事業が地域にも根付いていく。次のステップで更にこれを充実させていきたい。

#### ●事務局

ロングトレイルについては別の枠組みで動いていたものを報告させていただいた。このトレイルを歩いていただく方に何を伝えていくかを是非今後詰めていきたい。宮島岬などでガイドの方から歩く方々に伝えていく仕組みづくりに取り組んでいく。次の小委員会開催の段階で相談させていただきたい。自然再生事業の取り組みだと明確に言ってもらえるように進めていきたい。

#### ●委員

釧路湿原の再生が必要な理由は、流域も含めた湿原を再生しなければいけないほどの破壊が進んでいるということ。太陽光発電による開発が進む釧路市南部地域が釧路湿原国立公園に含まれていないという重大な弱点がある。釧路市の流域周辺の丘陵地帯では、ブルドーザーを使い森林伐採をしており、土砂の流出が大量に起きている。

環境省にお願いしたいが、トレイルを作るといった利用を考えるよりも、まずは湿原と接する流域部分、特に生態系にとって非常に重要な部分の開発について考えてほしい。ラムサール条約にも湿原は流域全体を考えなければ保全はできないという指摘がある。資料4に、「今後は湿原全体の保全に対する評価も展開していきたい」と述べられているおり、それを実行してほしい。

#### ●委員

北海道東トレイルのホームページは、とても良くできている。良い方向に進んでほしい。

環境省に質問だが、ホームページでの英語や中国語などの外国語の表記というのはどうなっているのか。インバウンドの対応もあると思うが、ここを通る方にルールを知ってもらうという意味でも、色々な言語での発信が必要だと思う。

#### ●事務局

幅広く世界の方々に歩いていただき、この素晴らしい釧路湿原の流域、阿寒摩周国立公園、釧路湿原国立公園の自然と文化を満喫していただきたい。他言語によるホームページの情報発信は実現に向けて動いているところである。

●委員

国内の色々な国立公園で、こういうトレイルが増えている。特に九州、熊本のホームページはとても良いホームページが作られている。釧路湿原も期待している。

●委員長

後半は小委員会の名称について議論したい。

-----休憩

●委員長

総合討論では、本日の小委員会の名称及び目的と実施内容に関して議論したい。

●事務局

【議事4. 議事】

(資料5. 第1回再生普及・地域づくり小委員会(仮称)資料)

(小委員会再編の経緯について 4. 総合討議 資料 p53)

資料に基づき説明

●委員長

3月に開催される釧路湿原自然再生協議会の場で本小委員会の新しい名称を報告するため決定する必要がある。

意見、質問等はあるか。

●委員

資料54ページのポンチ絵の重なり部分がサステナブルツーリズム振興とされているが、これではツーリズムにだけ力点が置かれているように誤解される。サステナブルユース振興やサステナブルディベロップメント振興、または、サステナブルユーティリティ振興などが世界的に普及している言葉である。ツーリズムに限らず様々なものの持続可能な活かし方、湿原の機能や環境の活かし方、産業連携、地域づくり、環境教育の普及などにも繋がる。

●委員長

国際的なユースやユーティリティなどの方が、産業連携や地域づくり、観光ツーリズムが中心



の一つではあるが、農業、環境も含めた考え方もあると思う。

●委員

資料4にある釧路湿原自然再生協議会全体のツリーの図でいうと、3. 社会・経済環境というのがこの小委員会が担う部分である。これを前提で考えることを共通認識としてはどうか。

●委員

資料4に示すとおり再生普及小委員会が横断的に入っているという役割や構図は変わらない。この小委員会はソフト面の議論が中心である。資料54ページに示された3つの枠組みの中央が中心となっていくという解釈で良いか。

資料4の記載のある「シマフクロウ、イトウなどの生きものたちが暮らし、人々に恵みを継続的にもたらしめてくれる湿原。ラムサール条約登録前のような湿原環境」というところをつなげて考えると、太陽光パネルなどの議論もこの場ですべきなのではないかという気がする。そういう問題の受け皿がない印象を持ったため、この小委員会の性格がどのようなものなのか疑問を感じた。

●委員長

資料4下図は決定された事項であり大前提である。社会・経済環境に関する計画や行動方針は作るが、記載していないからといってやらないというのではなく、新たに起きたことに関しても適宜、対応するというような形の行動方針にしておいてはどうか。

再生普及小委員会がこれまで実施してきた評価は、評価基準を決めて、それに基づいてやる必要があるが、計画で評価基準が決まっていなければ評価はできない。

評価基準をどうするのかという議論なのか、現状の評価基準には無いが、そういう受け皿にすべきという議論なのか。

新たに起きる色々な問題を議論する場合、社会や経済環境という枠でいえば、この小委員会になるのかもしれないが、それが現実としてできるのか。それらを拾って運用するのか、予算も人数も少ないため内容を絞って議論するのか、色々な方法があるとは思う。貴重な問題提起であり、皆さんの意見を聞きたい。

●委員

この釧路湿原自然再生協議会が発足した初期には、この小委員会の前身である「利用小委員会」で、委員から問題提起をしていただいた。釣り人の特別保護地区への立ち入り、カヌー利用者による不適切な行動などの色々な問題が出てきたが、利用に関わる啓発をすることで問題となる利用が減少したということがある。そういう部分を小委員会としては引き継いでいきたい。

●委員

ポンチ絵の下側に書いてある取り組みは、理解する上で邪魔になっている印象がある。例えば、太陽光パネルの話題では、産業連携、サステナブルユース、市民参加や環境保護のそれぞれの視点から、どう取り組んでいくかが議論できれば、受け皿として柔軟性を持てるのではないかな。

#### ●委員

太陽光発電についての議論は、この小委員会が担当するとは言えない事案である。新しい3つの小委員会でそれぞれの立場で検討し、その結果を釧路湿原自然再生協議会に上げて議論が展開していくのではないかな。

#### ●委員

先ほどの発言のように、確かに小委員会でメガソーラーのような案件について議論しだすと、他の議論ができなくなる。先ほどの発言にもあった太陽光パネルや湿原南部地区の荒廃、或いは外国資本による土地の買い占め、千島海溝地震の際の湿原へのインパクト、様々な危機管理問題に対してどう対応していくのか。この小委員会を含め協議会には、湿原に関する知見のある方、調査データを持つ貴重な団体等が存在していることから、災害時や復興時等には何らかの関わりを持っておくことが必要ではないかな。湿原の周辺開発などの状況は、当協議会と国や北海道、それぞれの流城市町村との間で情報共有する必要があるのではないかな。

#### ●委員

危機管理に関しては、人の目、社会の目を育てていくというのが、この小委員会の一つの大きな役割ではないかな。資料54ページの図では、地域づくりと環境教育が別々になっているが、一つの土台の上に色々な事業が乗っているという話で捉えてはどうか。関心を増やしていくことが、危機管理にもつながっていく。その手段として、ツーリズムや一次産業との連携がある。土台となる何をするかということが適切に表現されているのが委員会の名称になるだろう。資料4の3. 湿原生態系と持続的に関われる社会づくりに根付いた話をしていくのが良いのではないかな。

#### ●委員

サステナブルツーリズムという言葉を一般市民、子どもに言って理解できるのか疑問である。子どもから老人まで分かるような名称が良いのではないかな。

また、ツーリズムでは地域づくりの色が強く、市民講座が薄れるイメージである。やはり市民講座、学校の教育を大事にしていくべき。

#### ●委員長

資料4の最初にあるように目指すべき姿というのは、釧路湿原自然再生協議会では、「シマフクロウ・イトウなどの生きものが暮らし、人々に恵を持続的にもたらしてくれる湿原」と「ラムサール条約登録前のような湿原環境」としている。これが大前提であり、「目標3. 湿原生態系と

持続的に関われる社会づくり(社会・経済環境)」は既に決定されている事項である。

この小委員会で議論する内容は、ポンチ絵のように考えても良いのではないかと考えている。ツーリズムの部分はユーティリティやユースでも良いのではないと思う。

ロングトレイルと釧路川のトイレの設置というのは、今までやってきたことであり、これから続けることもあるが、役割が終わったら次の話になるかもしれない。

危機管理的な議論もしたいということがあれば、その可能性もあるのかもしれない。

再生普及小委員会で実施していた評価は決定事項であるが、それ以外のところは適宜小委員会レベルで取捨選択する可能性はある。新しいことも考えたいという意見があればいただきたい。事務局や委員にも労力的に限りがあり、やれることやれないことがあるかもしれない。

#### ●事務局

図の吹き出し部分は、これまでやってきたものを例として挙げている。仮に構図を示したものであり、この図に限らず他の構図で考えても問題ない。

#### ●委員

地域づくり小委員会と再生普及小委員会は、同じ目標から派生している。これまでの各小委員会で実施してきたことと、新しくできそうなことを合わせることで、どういうストーリーができそうかを話し合えば、一緒になる意味があるのではないかと考える。

シンプルに発想できる小委員会の名称が適切であると思う。子どもから老人まで分かる名前というのは大事である。全国には色々な地域で自然再生協議会が展開されており、実は個性的な名前がついている。釧路湿原自然再生協議会の中で、この小委員会だけが雰囲気の違う委員会の名前でも大丈夫なのかということも合わせながら考えていく必要がある。この小委員会の活動に直結した名称が良いと考える。

#### ●委員

2つの小委員会の重なり部分であるサステナブルの部分が新しい小委員会だと説明すれば、皆さん分かりやすくなるのではないかと考える。

#### ●委員長

2つの委員会が一緒になって、新たにできることは何なのかというメッセージは伝えたほうが良い。おおよその方向が合意できれば、これまでの基本方針をベースにするので大きな影響はない。

#### ●委員

今までの2つの小委員会のやってきたことに少しとらわれ過ぎているという印象がある。釧路湿原自然再生協議会では、さらに幅広いことを小委員会に求めているのではないかと考える。ソーラー

パネルについても、社会経済、集水域全体の土地利用計画の側面などから広く検討する場があっても良い。原点に戻るといことも含めて、社会・経済環境という面から湿原再生を見ていくというのが、地域づくり小委員会であったと理解している。これまでは具体的なことを議論されてきたと思うが、広く教育や社会経済全般を集水域全体という視点で見ていく小委員会が求められているのではないか。釧路湿原自然再生協議会には、生物とそれを支える物理・化学環境の観点から湿原を捉える 2 つの小委員会がある。必要とされているのは広い社会経済全体を見たような小委員会なのではないか。

#### ●委員長

地域づくり小委員会では、事務局と委員ができることからやるというのがこれまでの姿であったが、2 つの小委員会が一緒になるのだから更に大きな話もできるような立て付けにしておいたほうが良い。しかし、実際にできるかどうかは事務局や委員会の能力次第である。実際にはやれないことを掲げてもしようがない。実際やるかどうかは決めていくが、実際方針にそういうのも広く読めるように書いておくということも良いかもしれない。

#### ●委員

私のイメージでは、この小委員会は学識的、科学的に答えを出す性格ではないと思っている。釧路湿原を大切だと思い、環境を何とかしたいと集まっている一般市民の代表のように感じている。そこで感じた不安や危機感を、有識者が中心となって議論を行っている他の小委員会に相談や問いかけをするという関係を持って良いのではないか。この小委員会は各委員会の横断的な位置付けとされている。答えを出せない、議論ができないというよりも、心配なことがあれば話題として出して問いかけをして、釧路湿原自然再生協議会全体で共通認識を持つという構図で良いのではないか。地域づくりの部分も必要なことではあるが、そればかりに力を入れるのではなく、基本に立ち戻って考えてはどうか。

#### ●委員長

このポンチ絵は、これまでの実績について分かりやすい形であるという整理で良いか。

(了解)

今後はこれに基づいて基本方針を決めていく。

私の印象では、過去に引っ張られ過ぎている感じがするため、名称案 1 を叩き台にして修正していくのも良いと思う。

皆さんの思いが伝わるような名称案を出してほしい。

#### ●委員

名称案 1 は少し長すぎるため、「湿原と地域小委員会」で良いのではないか。

●委員長

名称案 1 を修正していくような感じではどうか。  
皆さんからも想いが伝わるような提案はないか。

●委員

「市民」という言葉を入れてはどうか。例えば、湿原と市民、キーワードとして市民という言葉が入るのはとても良い。

●委員

鶴居村、釧路町、標茶町は町民のため「市民」とすると不快に思う方がいるのではないか。市民や町民を含む名称があれば良い。

●委員

市民の言葉の意味は広い。町民を含んでいない言葉ではない。

●委員

「市民」という考え方、一人一人の生活を考えるという点ではとても賛同できる。一方、町民、村民、集水域全体を見たときに市民と言ってしまうのはどうかとも思う。

例えば「湿原と我々の未来小委員会」という名称はどうか。一人一人が湿原と未来を考えるとこのような意味合いである。

●委員

「湿原と未来小委員会」など、たくさん意見を出して委員長に選んでもらおう。

●委員

「再生普及ワイズユース小委員会」という名称はどうか。何をしているのかが分かるのが良い。学習、普及、ワイズユースという言葉も良い。釧路湿原が国立公園になって既に 30 年以上、ワイズユースを掲げてやってきた。そろそろ皆さんに知ってもらっているのではないかと思います。「再生普及ワイズユース小委員会」には、新しさは全くないが分かりやすい。高崎委員が提案する「連携」も大事である。「連携」が入るのも良い。

●委員

釧路湿原自然再生協議会が発足した時から、「目標 3 生態系と持続的に関われる社会づくり」というのは非常に大事なものとして議論されてきた経緯がある。短めの名称であれば名称案 2 になるのではないかと思います。色々な想いや意見があると思うが、少し分かりづらくなると感じた。

●委員

「みんなの湿原小委員会」という名称はどうか。

●委員

人口減少社会等、日本は全体としてそのような方向に向かって進んでいる。従って、根釧地域や湿原が、今後も持続していくことを鑑みて、「持続」という言葉を名称案1に入れたら良いのではないか。

●委員長

キーワードは出揃ったようだが、グルーピングしても最終的にどれにするか決められない。この3種類のキーワードが入るような感じに整理するしかない。

●委員

釧路湿原があってこそその地域再生だと思う。「湿原からの恵みを考える小委員会」はどうか。

●委員

色々なキーワードが出てきてまとまらないのではないか。また、湿原という言葉に対する感覚が、皆さんと私とでは少し異なり、一般の人に湿原と言っても、こんなに大きい釧路湿原を思い描けない。世界で唯一のザ・釧路湿原が伝わらないのではないか。釧路湿原自然再生協議会では定義付けがしっかりしているため、ここでは通称的に色々なイメージをしていただける名前でも良いのかもしれない。「みんなの湿原」は色々なイメージが持てるので動きやすくなるのではないか。

●委員

当事者感覚につながるような言葉があれば良いと。キーワードとして取り上げられた「地域」よりも「市民」が自分の感覚に近い。

●委員長

色々やっていることが読めるようにするのは難しい。現時点で何をやるのかもわからない。湿原生態系と持続的に関わる社会・経済環境に関するものであれば、「再生普及ワイズユース」が良いが、主体が出てこない。そこで「市民」か「我々」という話になる。

●委員

方向性と何をして、どこを見て、誰を巻き込もうとしている委員会なのかが分かれば良い。それにより新しい委員が応募してくるというような観点があっても良い。やることがはっきりわからないというのは現時点では仕方がない。誰を巻き込むのかについては、市民、我々、みんな、

地域というキーワードからセレクトするのが良い。

●委員長

社会・経済環境を扱うという説明さえつけておけば、名称案1をベースに作って良いのではないか。主体は一市民でも湿原を考えたい、関わりたいという人を呼び込んでいるということが伝わると良い。再生普及ワイズユースであれば、再生普及に関して素人だからという人が少し引いてしまうかもしれない。

●委員

再生普及推進のための連携チームの名称を決める時にも時間がかかった。この名称でそのまま呼ぶ人は誰もいない。「推進連携チーム」と言っている。

「湿原学習のための学校支援ワーキンググループ」も何をするか分かった方が良いということのでついた名称である。これも「学校支援ワーキング」と呼ばれている。長い名前のデメリットはあるが、短く集約することが難しい時に参考にしてほしい。

●委員長

取り組み内容からすると、再生普及やワイズユース、サステナブルユース、サステナブルユーティリティである。湿原と地域の未来委員会を通称名として、波線で再生普及ワイズユース等の言葉をつけるのはどうか。通称名に必ず説明がついていれば、呼び方としては「湿原地域委員会」、「みんなの湿原委員会」、というように通称名と分ける方法もある。

●事務局

当事者を入れるとすると「みんな」という言葉であれば、目指すべき姿のシマフクロウやイトウも含めて「みんな」として表現できる。全体構想に掲げられた目標：湿原生態系と持続的に関われる社会づくりに合致するのではないか。

●委員長

「湿原と地域の未来」、「再生普及、ワイズユース」だが、「ワイズユースや再生」は必ずしも名称には入れなくて良いのではないかと思う。名称案1の「湿原と地域の未来小委員会」をベースにしつつ、人間だけではなく動物や植物も入る「みんな」を入れれば、市民なども含まれる。恵みや持続可能なところまで含まれるかは難しい。

釧路湿原自然再生協議会の下部組織で社会・経済環境を中心に取り組むと位置付けられた小委員会であるという前提で整理したい。

役所側から見ても、この小委員会の名称だけが、かけ離れた印象にならないようにしたい。最終的に、私に任せてもらえるのであれば、委員長一任ということで整理したい。

●委員

委員長に一任させていただくが、役所が納得できるという考え方は不要である。釧路湿原自然再生協議会は役所が事務局を務めているが、委員一人一人が主役であり、我々委員が良いというようなものを決めていくものだと思う。

●委員長

実際に釧路湿原を守りたいという想いで皆さんも参加されている。役所に従うという主旨ではない。全体として総合的な観点を踏まえながら整理したい。

事務局から連絡事項はあるか。

●事務局

連絡事項は無い。

●委員

本日、皆さまにお配りした資料の説明をしたい。

現在、釧路総合振興局ではポケモンと包括連携を結び、スタンプラリー事業を開催している。釧路8市町村11カ所のスタンプラリーの地点を設け、管内を周遊していただくというイベントを開催中である。イベントは既に開始しており、3月2日までの短い期間だが、是非皆さまにご参加いただきたい。

●事務局

これで第1回再生普及・地域づくり小委員会（仮称）を終了する。

（終了）